

2019年度事業計画

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

【企画運営活動】

1. 第36回社員総会

5月24日・大阪科学技術センターで開催予定。主な議題は、①2018年度事業報告承認の件 ②2018年度貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録承認の件 ③役員選任の件 ④その他（2019年度事業計画報告の件・2019年度収支予算書報告の件・新終身会員報告の件）。

2. 理事会

本会の意思決定機関として、本会の事業活動を担っている事業企画委員会、会誌委員会、各種委員会、特別委員会等の活動状況の報告をうけ、定款によって定められた審議事項並びに会全体の運営に係わる事項についての審議・決定を行う。2019年度は第201回～205回の5回を開催予定。

3. 委員会等

会長の諮問に答え、また委員会規程に基づき各種の業務執行にあたる。2019年度は下記12の委員会及び監査会を設置する。

①人事・財務委員会

定款第46条に基づいて事務局職員の任免並びに給与等及び本会の予算案の編成並びに経理と財務を掌理し、長期的財政の安定を図る。2019年度は1～2回を開催予定。

②事業企画委員会

本会の目的達成のため必要な事業企画を掌理する。2019年度は6回を開催予定。

③会誌委員会

会誌委員会は、理事会と会誌（『近畿化学工業界』）編集委員会との間の意思疎通を円滑にし、必要に応じて、会誌の編集等に協力する。2019年度は12回を開催予定。

④技術賞委員会

表彰規定に基づく事項を掌理する。2019年度は1～2回を開催予定。

⑤総務委員会

総務委員会は、総務的事項並びに他の委員会に該当しない事項で、本会の運営上必要かつ重要な事項を掌理する。また、必要に応じて、新規会員（特別及び正会員）獲得のため各委員会が行うイベント等の情報共有・調整を行う。2019年度は1～2回を開催予定。

⑥合同事務局運営委員会

一般財団法人大阪科学技術センタービル608号室に同居する化学系の学術5法人の運営に関する事項を合同事務局運営規則（部屋代・人件費・社会保険料・事務局運営経費等の経費分担）により掌理する。2019年度は数回の開催を予定。

⑦研究部門委員会

部会の運営、改廃を掌理し、また本会の目的のための必要な部会・研究会の設置について審議する。2019年度は1～2回を開催予定。

⑧国際交流委員会

交流協定書を締結している韓国工業化学会行事内容及び日中化学産官学交流会・上海サロンの内容などを本会機関誌及び連絡拠点を通じて大学、企業に周知して参加を促す。また、より広い地域との交流事業を企画実行する。2019年度は1～2回を開催予定。

⑨男女共同参画推進委員会

男女共同参画推進委員会は、本会の男女共同参画を推進するための具体的な事業等の企画立案を行う。2019年度は1～2回を開催予定。

⑩情報化委員会

本会の効率的・効果的運営に必要な情報化社会システムの活用について企画、推進する。

2019年度は1～2回を開催予定。

⑪代議員選挙管理委員会

2020年4月1日就任の代議員選挙実施に伴い理事会から独立した委員によって選挙管理を行う。2019年度は2回を開催予定。

⑫代議員候補者選考委員会

2020年4月1日就任の代議員選挙実施に伴い理事会及び代議員選挙管理委員から独立した委員によって代議員候補者の選考を行う。2019年度は1～2回を開催予定。

⑬監査会

定款第25条に掲げる監事の業務を執行する。①理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。②理事及び事務局に対して事業の報告を求め、本会の業務及び財産の状況を調査する。2019年度は1回を開催予定。

そのほか特別委員会を必要に応じて開催。

【国際研究集会・国際交流事業】（公益目的事業1）

多くの日本の研究者及び化学系企業が進出している海外の下記拠点において大学、研究機関、企業の技術者を対象とした技術交流会（学術講演会・見学会）を開催し、学術研究や異種産業技術間の連携・交流の場を提供する。会員・非会員に関係なく広範に参加を募り、我が国科学技術の振興と社会経済に貢献することを目的とする。

1. 韓国工業化学会との交流

2019年度は情報交換及び化学啓発行事である韓国化学工業会の年会の内容などを本会機関誌及び韓国の連絡拠点を通じて大学、企業に周知して参加を促す。

2. 韓国蔚山工業誘致協会（精密化学品工業センター）との交流

上記同様年会の内容などを本会機関誌及び韓国蔚山工業化学会の連絡拠点を通じて大学、企業に周知して参加を促す。

3. 日中化学産官学交流

中国、上海における技術交流及び人的ネットワークの構築のために上海化学産官学交流会及び上海サロンの内容などを本会機関誌及び中国の連絡拠点を通じて大学、企業に周知して参加を促す。

4. より広い地域との交流事業を企画実行する。

【優れた研究業績の顕彰事業】（公益目的事業2）

化学工業振興の見地より若い研究者及び技術者の優れた業績を発掘するとともに、化学技術の発展に向けての更なる貢献を期待し、その業績をたたえ激励することを目的として、化学技術賞・環境技術賞を設けて顕彰を行う。

1. 2018年度第71回化学技術賞授賞者4件・14名並びに、第19回環境技術賞授賞者1件・4名を第36回社員総会の席上にて表彰。

定款及び表彰規定に基づき、化学技術賞審査委員会にて選定された技術者の表彰を行う。

2. 2019年度第72回化学技術賞並びに第20回環境技術賞の審査、選定（3月）

第72回「化学技術賞」

2019年度内における化学に関連する研究・技術で、工業化したもの、工業化するもの、工業化への寄与が著しいもので、その独自性、工業的・社会的・学術的価値などを基準に、特に顕著な業績のあった者を、本会の定款及び表彰規定に基づき化学技術賞審査委員会にて選定。

第20回「環境技術賞」

2019年度内における化学に関連する研究・技術で、地球環境との共存並びにその維持・改善を積極的に意識し、方向付けがなされた新技術・改良技術及び概念の構築への寄与が著しいものについて、その独自性、工業的・社会的・学術的価値などを基準に、特に顕著な業績のあった者を、本会の定款及び表彰規定に基づき化学技術賞審査委員会にて選定。

【人材育成のための研修事業及び能力開発事業】（公益目的事業3）

1. 第41期研修塾

会員企業より選抜された30歳代の技術者、研究者を対象に1年を通じて人格並びに人脈形成を図る。明日の産業界を担う次代の人材育成を主旨に、自らに討議主題を課すと共に自らの頭で考える力を涵養し、また、第一線でご活躍の講師を招いて、その人間性や思想に触れる中でお互いに研鑽し、資質を磨き、人脈並びに人格形成を図る。

毎月1回本講座と自主講座を交互に開催。（塾生25名）

塾頭：松本 章一（大阪府立大学大学院工学研究科教授）

副塾頭：宮田 幹二（大阪大学産業科学研究所招へい教授）

〃：藤田 健一（京都大学大学院人間・環境学研究科教授）

2. 学術セミナー・講習会

本会の目的達成をするために事業企画委員会で化学に関する専門的な学術セミナー・学術講習会・学術講演会・見学会等の開催により、科学技術の普及・振興を図る。

2019年度は下記9件を実施予定。

事業企画委員長：西山 豊（関西大学化学生命工学部教授）

①第24講研究開発リーダー実務講座2019（6月～11月の毎月1回、全6回）

②近化資源セミナー

③近化電池セミナー

④近化新春セミナー2020

⑤近化高機能材料セミナー

⑥第17回キンカ高分子化学研修コース

⑦若手フォーラム

⑧第11回ファインバブル技術講習会【日本混相流学会と共催】

⑨近化サミット

3. 学術講演会

本会社員総会終了後の特別講演会として5月24日・大阪科学技術センターで開催予定。

「テクノロジカル・シンギュラリティ～最先端技術を用いて、化学は世界をどう変えるのか?～」

筑波大学大学院客員教授、東京大学非常勤講師 牧野 司氏

4. 見学会（科学技術週間協賛行事）

科学技術の普及啓発活動の一環として、科学技術に関し、ひろく一般国民の関心と理解を深め、もって我が国の科学技術の振興を図ることを目的に見学会を年1回企画・実施する。

2019年度は4月18日・コマツ((株)小松製作所) 大阪工場（大阪府枚方市）にて開催、建設機械の製造工程等を見学予定。

【化学に関する知識普及及び情報の提供事業】（公益目的事業4）

機関誌「近畿化学工業界」を月刊誌として、化学工業に関する広巾な知識の普及と情報の提供を行うこと及び情報の交換の場とすることを目的として発行する。記事内容は共通する事項を網羅して、専門以外の幅広い化学分野の最先端の動きを掲載することにより、化学技術の普及と振興を図る。

1. 会誌「近畿化学工業界」を刊行する。

2019年度は第71巻第4号～第72巻第3号(通巻792号～803号)を刊行（月刊）予定。

編集委員長：今田 泰嗣（徳島大学大学院社会産業理工学研究部教授）

【技術交流事業】（共益事業1）

特定分野に限らない学術講演会・サロン・見学会・交流会の開催により、科学技術の普及、振興を図る。

1. キンカ東京サロン

東京在住の会員の世話による、斯界の第一人者を招いた化学に関する学術講演と討論を行い会員交流・技術情報の交換を図る。年5回の開催を予定。（4、6、9、11、2月）

2. キンカつくばサロン

筑波在住の会員の世話による、斯界の第一人者を招いた化学に関する学術講演と討論を行い会員交流・技術情報の交換を図る。年1回の開催を予定。

3. キンカ京都化学者クラブ

京都在住の会員の世話による、斯界の第一人者を招いた化学に関する学術講演と討論を行い会員交流・技術情報の交換を図る。原則として毎月第1土曜日に開催予定。

4. 化学技術アドバイザー会（キンカCA）

アドバイザー登録者(近畿化学協会正会員の有志100名)による自主運営とし、近畿化学協会での位置づけ（組織図）は、研究部門委員会（専門部会・目的研究会）の規程を準用する体制のもとで活動を行う。

会員企業及び一般企業から依頼により技術相談を行う。

工学倫理研究会、化学教育研究会、安全研究会、MOT研究会では登録会員間の情報交換・懇談会及びこれまでの経験を生かした社会への貢献、啓発活動を行う。

【専門部会事業】（共益事業2）

化学の専門分野に応じた9の各専門部会を設置し、各専門部会が部会の目的に沿って部会員の活動の場となり、部会員が協力して科学技術の振興を図る。部会員相互の学術的及び技術的知識の増進を図ることを目的として、例会（学術講演会）、基礎講習会、学術講習会、学術セミナー、討論会、シンポジウム、フォーラム、公開講演会、懇話会等を行う。

第1部会（有機金属部会）

有機金属化学における基礎研究並びにスペシャリティケミカルズの開発に関する研究会として例会（学術講演会）・学術セミナー・討論会等の実施及び知識普及事業として部会機関誌 Organometallic Newsを刊行予定。

・ 部長：松坂 裕之（大阪府立大学大学院理学系研究科）部会員数 541名

・ 例会：年4回開催

・ 第46回有機金属化学セミナー（6月5日・キャンパスプラザ京都）

・ 第66回有機金属化学討論会（9月14日～16日・首都大学東京南大沢キャンパス）

・ 部会機関誌 Organometallic News 2019 No.2～No.3, 2020 No.1(Web版), 2019冊子体刊行

第2部会（合成部会）

有機合成化学の基礎研究並びに医薬、農薬、エネルギー開発、生体模倣材料の合成化学的開発に関する研究会として合成フォーラム等を実施。部会内に設置されたフロー・マイクロ合成研究会では、自動合成やマイクロリアクターを使った合成に関する研究会として研究会（学術講演会）、公開講演会&展示会等を実施予定。

- ・ 部会長：杉野目 道紀（京都大学大学院工学研究科）部会員数 278名
- ・ 合成フォーラム：年2回開催
- ・ 第15回国際有機化学京都会議（IKCOC-15）（2021年・京都にて開催予定）
- ・ 公益社団法人有機合成化学協会関西支部主催の関連行事を支援

[フロー・マイクロ合成研究会]

- ・ 代表：吉田 潤一（京都大学名誉教授・鈴鹿工業高等専門学校）会員数 280名
- ・ 例会：年2回開催
- ・ 第33回公開講演会&展示会（8月8日・大阪科学技術センター）
- ・ 国際シンポジウム（ICAMS-2）（11月21～23日・淡路夢舞台国際会議場）

第3部会（触媒・表面部会）

触媒化学の基礎研究並びにファインケミカルズ開発の触媒設計等に関する研究会としてキャタリストクラブ例会（学術講演会・研究発表会）、学術セミナー、学術講習会、国際シンポジウム等を実施予定。

- ・ 部会長：田中 庸裕（京都大学大学院工学研究科）部会員数 145名
- ・ 例会：年2回開催
- ・ 入門触媒科学セミナー（大阪科学技術センター）
- ・ ナノ材料の表面分析講習（近畿大学（予定））
- ・ Osaka-Kansai International Symposium on Catalysis (OKCAT2019)（関西大学（予定））

第4部会（ヘテロ原子部会）

脱硫、脱硝に伴う副生物の有効利用、ヘテロ原子化学の基礎研究並びに応用開発に関する研究会として懇話会（学術講演・見学会）等を実施。

- ・ 部会長：森 敦紀（神戸大学大学院工学研究科）部会員数 158名
- ・ 懇話会：年3回開催

第5部会（バイオ部会）

バイオテクノロジーの基礎研究並びに工業生産技術開発に関する研究会として例会（学術講演会）等を実施予定。

- ・ 部会長：跡見 晴幸（京都大学大学院工学研究科）部会員数 104名
- ・ 例会：年2回開催

第6部会（機能性色素部会）

機能性色素材料の基礎研究並びにデザイン、合成、物性等に関する研究会として例会（学術講演会）、公開講演会及び2年に1回200名規模の機能性色素および先端材料に関する東アジアシンポジウム(EAS)を日本またはアジア地域において実施予定。

- ・ 部会長：今堀 博（京都大学大学院工学研究科）部会員数 163名
- ・ 例会：年2回開催
- ・ 見学研修セミナー（7月29日・東洋紡(株)高砂事業所）[エレクトロニクス部会と共催]
- ・ 公開講演会（11月8日・大阪科学技術センター）[エレクトロニクス部会と共催]
- ・ 第9回機能性色素および先端材料に関する東アジアシンポジウム(EAS-9)（9月17～20日・台湾）[エレクトロニクス部会と共催]

第7部会（エレクトロニクス部会）

電子材料の新素材研究と学際領域の技術開発に関する研究会として例会（学術講演会）、研修セミナー、公開講演会等及び、部会機関誌 Electronics Communicationsを刊行予定。

- ・ 部会長：松田 建児（京都大学大学院工学研究科）部会員数 128名
- ・ 例会：年2回開催
- ・ 見学研修セミナー〔機能性色素部会と共催〕（前出）
- ・ 公開講演会〔機能性色素部会と共催〕（前出）
- ・ 第9回機能性色素および先端材料に関する東アジアシンポジウム（前出）〔機能性色素部会と共催〕
- ・ 部会機関誌 Electronics Communications No.35刊行（電子版）

第8部会（コンピュータ化学部会）

物質のデザイン、生産工程のコントロール、人工知能開発研究に関する研究会として例会（学術講演会）、公開講演会、公開セミナー等を実施予定。

- ・ 部会長：太田 浩二（京都大学学際融合教育研究推進センター）部会員数 85名
- ・ 公開セミナー3回開催

第9部会（重合工学部会）

重合体製造プロセスに関する研究会として例会（学術講演会）、重合プロセスの基礎講習会、重合工学レクチャーシリーズ等を実施予定。

- ・ 部会長：安田 昌弘（大阪府立大学大学院工学研究科）部会員数 49名
- ・ 例会：年1回
- ・ 重合プロセスの基礎講習会：年1回
- ・ 重合工学レクチャーシリーズ：年1回

* 上記の他、各部会運営委員会にて独自の企画を随時実施。

【学協会との連携及び合同事務局の運営事業】（共益事業4）

1. 学協会との連携及び合同事務局運営事業

一般社団法人近畿化学協会・公益社団法人日本化学会近畿支部・公益社団法人化学工学会関西支部・公益社団法人日本分析化学会近畿支部・公益社団法人有機合成化学協会関西支部の5法人で「合同事務局運営委員会」を組織して合同事務局の運営を行う。

2. 関連学協会行事協賛

化学分野の学術団体が主催する学術セミナー・学術講演会などの行事に協賛し、内容を会誌などで会員に周知する。会員が行事に参加する場合は各主催者で定めた割引費用で参加できる。

2019年度事業予定の付属明細書

2019年度事業予定には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。